

「風の時代」のまちづくりの胎動—米沢 東町プラットフォーム

高澤 由美 山形大学

東町プラットフォームは上杉の城下町、米沢で活動する官民連携の小さなエリアマネジメント組織だ。2022 年から地域の将来像についての話し合いやまちあるき、シンポジウムなどを行っている。華々しい活動や成果があるわけではないが、軽やかでフラットなまちづくりの場がつけられつつある。

東町プラットフォームは「このままでは米沢がマズい!」と感じた市民がはじめた活動だ。彼らは高校卒業後、国内外で活躍し十数年ぶりに米沢に戻ってきたが、まちにかつての元気がなく明るい未来の姿がみえないことに危機感を抱いた。地元の高校時代の同窓生との会話のなかで、何かできないか、という思いが活動につながり、まちづくり会社「ウコギ社」を設立した。そして地域づくりの拠点を設けよう東町プラットフォームを立ち上げた。

東町プラットフォームのメンバーは自治会や学生、金融機関や市役所の職員、地域おこし協力隊などいろいろな立場の老若男女で構成されている（筆者も仲間に入れてもらっている）。月に一度例会のようなものを開催しているが、高校の同級生がベースメンバーだったこともあり話し合いの場の雰囲気がとてもフラットだ。米沢の良いところを残したい、元気にしたい、という使命感のようなものを共有しながらも気負わずに楽しみながらまちづくりを実践している感覚だ。何かをやってみよう！とアイデアがでた時にはポジティブにそれぞれの経験と知見と人脈を持ち寄って実現にむけて協力しあう。一方でそれぞれ本業があるため、例会やイベントごとに参加できない場合もあるが、プラットフォームの活動が強制されているわけではないので、後ろめたさのようなものを感じずにいられる。この軽やかなマインドがまちづくりの垣根を低くしているようで、少しずつ仲間も増えている。

東町プラットフォームでは大小さまざまな活動をしているがその中で最近の取り組みを紹介したい。

【マチスタジオ】

マチスタジオは、築 50 年以上経過した旧納豆工場をリノベーションで生まれ変わらせた民間の施設である。2 階建の鉄骨造で、改修後 2 階部分はシェアオフィス、1 階部分はピロティで公共に開放したスペースだ。

東町は造り酒屋や神社仏閣、米沢織の機屋など古き良き米沢らしさを垣間見ることのできる建物・空間が残されている。また近隣には小学校や高校、大学があり、人通りが少なくないにもかかわらず立ち寄る場所がなかった。東町プラットフォームではこのマチスタジオの空間を、地域住民や通りすがりの



図 左：イベントの告知 右：PBL 型講義の様子

ひとが日常的にふらりと立ち寄るスペースとして活用できないか知恵を出し合っている。ちなみに柿落としには町内会の行事として山形の秋の風物詩芋煮会が開催された。また大学の PBL 型講義のフィールドとしても活用し、学童保育の児童向けのアートイベントなども実施した。今後は近隣小学校の児童の作品展示や、真冬にこたつを設置し e スポーツなどを楽しむ「東町ストリートこたつ」などを企画している。

【学生シェアハウス】

東町の一角にある空き家を使って学生が DIY でシェアハウスをつくる取り組みが進行している。学生たちは、工務店を経営するメンバーや東京をベースに国際的に活躍する建築家にアドバイスをうけながら丁寧にプランニングをしており、地域で実践力を鍛えている。資金はクラウドファンディングでの調達に挑戦したが、なかなか達成に至らず苦戦した。ここでプラットフォームのメンバーが活躍する。学生たちの取り組みを応援しようとそれぞれの業界での PR や SNS での拡散などのサポートを行い、見事期限直前で達成に至らせることができたのだ。このシェアハウスが完成し学生が東町に住むことになれば、また新しい動きがうまれることを期待している。

自由でボーダレス、柔軟な価値観が好まれる時代を巷では「風の時代」というらしい。東町プラットフォームの活動はこの「風の時代」にフィットしているような気がしている。まちづくりへの熱々の想いをもっていなくても、日常的にまちへの関わりしろのある活動があって、時には主体的に参加して楽しむ。そして周りの活動を応援する。閉鎖的と評価されがちな城下町米沢でもこのような動きがうまれていることに明るい未来を感じている。